

令和元年度ふるさと創生NPO活動応援事業報告書

団体名	NPO法人ちちんぷいぷいあけぼの	
<p>1. 事業内容について、進捗状況報告書をまとめるような形で記載してください。</p> <p>私たちは、少しずつ流行してきている、食用コオロギの繁殖・飼育を行い、障害のある方が少しでも社会復帰できる環境を作るべく、この事業に取り組みました。</p> <p>まず、はじめに、フタホシコオロギ（200匹）とヨーロッパ家コオロギ（100匹）の飼育から始めました。どちらも気温や湿度に影響されるため、温湿度計で毎日計りながら、成長を見守るとともに、食用になるので、「津久見産の魚」や「津久見産の蜜柑の皮」を使用し、人が食べても良いエサを作り、飼育していきました。</p> <p>それと並行して、秋から冬にかけての、発酵熱の実験も始めました。米ぬかや木屑、鶏糞等を使用し、当法人の臼杵分場で実験を開始しました。</p> <p>約1カ月で、成虫のコオロギになり、そのころには、コオロギの糞も少しずつ蜜柑の皮の色をした糞を目にすることが出来始めました。10月末から11月にかけて、第二期の産卵・孵化を確認することが出来ました。エサと水を取れずに、死んでしまう個体もありましたが、11月の段階で、1500匹のコオロギを孵化を確認し、12月段階で、3000匹の孵化を確認・飼育することに成功しました。</p> <p>少しずつ、数も増えてきたことから、障害のある方の社会復帰のための準備を始めました。また、冬の寒さも厳しくなってきたこともあり、越冬のために必要な小屋を発注し、より多くのコオロギを飼育できる環境作りを始めました。さらに、ホームページを作成し、食用と併せて、爬虫類のペット用としても販売する方向で進めていきました。</p> <p>1月、寒くなったせいもあり、繁殖が思うように進まず、2月の段階で、10,000匹に到達しました。この2か月で、以前から相談させて頂いていた、Future Insect Eatingの高橋氏との相談の中で、イオングループさんともお話をすることができ、東京の市場との連携も視野に入れ、進めていけるようになりました。</p> <p>3月は、目標としていた30,000匹には届きませんでした。しかし、小屋も完成し、発酵熱の補助と温度・湿度を管理するストーブを設置し、より多くのコオロギを飼育する為の環境が整いました。これらの環境と障害者の社会復帰のために、さらに事業を拡大して行きます。</p>		

2. 事業を実施している様子等が分かる写真を4枚以上添付してください。



①工事風景写真1



③小屋完成写真



②工事風景写真2

※棟梁の手伝いをしているのは、福祉サービス事業所
ジョイントリーの利用者の皆さんです。
(顔が分からないようにしております)



③コオロギの水やり



④飼育部屋作成風景



⑥第三期コオロギ（フタホシ）

※これで、約 500 匹程度です。

3. 来年度以降、事業終了後も、その効果や結果が継続されるために、組織としてどの様に、体制や対応をしていくのかについて記載してください。

今後の当事業の継続予定として、就労継続支援A型施設を申請し、開所を目指します。その収入の一翼をコオロギ販売が担うべく、30万匹以上の飼育と6万匹の卵の確保に目処を付けています。また、コオロギ販売の販路開拓のため、イオングループをはじめ、昆虫食専門業「TAKEO」様とも連絡をとり、コオロギの販売基準を聞き、成分検査を行い、蜜柑の皮等の残薬も調べ、より安全・安心な「みかんコオロギ」を目指し、またその販売を予定しています。そのことにより、津久見のプロパガンダとしての役割を担い、市長をはじめ、行政ともイベントで発表できるようにすすめていきたいと考えています、

また、爬虫類のペット用のエサとしては、広報戦略として、郵便局と協力し、ダイレクトメールを発送する予定にしております。